



ふるさと笠松の「ちょっといい話」136号



第10回「道徳のまち笠松のつどい」を開催しました。

2月25日(日)に、第10回「道徳のまち笠松のつどい」という節目となった今回のつどいは、会場を笠松中学校屋内運動場(体育館)2階ホールにし、約400人の参加者のもと、盛大に実施することができました。

つどいは2部構成で、第1部は、広江町長のあいさつの後、第4回「かさまつ いいね」写真展入賞者の表彰を行いました。今回は、約100点の応募作品の中から「かさまつ いいね」大賞2名、「かさまつ いいね」賞4名による6作品を選出しました。次に、「道徳のまち笠松10年のあゆみ」を、10年前の「道徳のまちづくり条例」施行から現在に至るまで、活動の様子を中心に、スクリーンに投影しながら紹介しました。

第2部は、「夢があるから強くなる」と題して、公益財団法人日本サッカー協会最高顧問(キャプテン)の川淵 三郎氏から講演をしていただきました。自らの体験をもとにして、「夢に向かって力強く進むことが大切であり、それによって道は拓かれていく。」と話されました。とくに、深く関わってこられたサッカー界やその頃の社会情勢の話を始め、Jリーグ開設時やワールドカップ招致に関する課題や問題の克服、バスケットボール協会の問題の解決など、周りからはとても困難で大変だと思われることにも、明確なビジョンを持ち、時には大胆に、時には緻密に、時には強引に、時には柔軟に、立ち向かってきたと話されました。また、日本サッカー協会が中心となって進めている「心のプロジェクト」の取組は、「道徳のまち笠松」の活動にも関わる内容であり、今後の「道徳のまちづくり」推進に、心強さを得ることができました。講演の最後には、「笠松町にはまだまだ発展する余地があり、目指す方向に向かって、努力を続けることが必要である。」と締めくくられました。

川淵キャプテンの情熱あふれる講演を聞き、聴衆の皆さんは、個々に生きるエネルギーを得られたことと思います。また、「道徳のまち笠松」が次の区切りの10年を進めていくための大きな力を得ることができました。

これを契機に、「道徳のまち笠松」のさらなる推進に向けて、町民の皆さんの活動参加、支援、協力をお願いします。

を開催しました。第10回



多くの参加者



熱心に語る川淵キャプテン



「道徳のまち笠松」のメンバー
(オレンジTシャツ着用)



「かさまつ いいね」写真展入賞者の皆さん



「道徳のまち笠松10年のあゆみ」紹介

取材を終えて・・・「道徳のまち笠松」は、オレンジ色をイメージカラーとしています。それは、オレンジ色が「あたたかさを表す色」だからです。町民の多くの方がオレンジ色を身につけ、「道徳のまち笠松」の活動に参加してくださる姿を夢見ています。